

# 2008

ディスクロージャー誌  
かんぽ生命の現状



お客さまとともに未来を見つめて  
「最も身近で、最も信頼される保険会社」を  
目指します。

ブランドマーク



これまで日本郵政公社が培ってきた安心感をベースとして、  
より先進的な生命保険会社へと生まれ変わるため、  
洗練された鮮やかな青の「かんぽブルー」としました。

会社概要

名称

株式会社かんぽ生命保険  
JAPAN POST INSURANCE Co., Ltd.

事業開始日

平成19年10月1日

本社所在地

〒100-8798 東京都千代田区霞が関一丁目3番2号  
TEL 03-3504-4411 (日本郵政グループ代表番号)



株式会社かんぽ生命保険 本社(東京都千代田区)

取締役兼代表執行役会長 進藤 文介

取締役兼代表執行役社長 山下 泉

従業員数 5,646名(平成20年7月1日現在)

主な事業所 直営店80(統括支店13、支店67)  
サービスセンター 5  
コールセンター 1  
(平成20年7月1日現在)

資本金 5,000億円

株主 日本郵政株式会社 100%

## INDEX

トップメッセージ	2
<b>かんぼ生命について</b>	
会社発足の経緯	4
経営理念	6
経営の基本方針	7
経営課題への取組み	7
ビジネス展開	8
日本郵政グループの発足	10
<b>事業の概況・業績</b>	
1 契約の状況	14
2 損益の状況	15
3 資産・負債の状況	16
4 健全性の状況	17
5 資産運用の概況(一般勘定)	20
<b>保険会社の運営</b>	
1 内部管理態勢	24
2 コンプライアンス(法令等の遵守)の徹底	28
3 リスク管理体制	30
4 個人情報の保護	35
5 「お客さまの声」を経営に活かす取組み	36
6 査定審査会	38
7 お客さまサービスを支える情報システム	39
8 CSR(企業の社会的責任)の取組み	40
9 ディスクロージャーの充実	43
<b>商品・サービスの紹介</b>	
1 かんぼ生命の保険商品及び特徴	46
2 ご契約のお申込みから成立まで	49
3 コンサルティングセールスの充実	51
4 契約期間中の情報提供	53
5 保険金のお支払いについて	55
6 引受・支払体制の強化	58
7 新規開発商品・サービスの状況	59
8 企業経営者の方へ	61
9 お客さま相談窓口	62
10 民営・分社化についてのかんぼ生命からのお知らせ	63
11 生命保険契約者保護機構	66
会社情報	69
業績データ	77
用語解説	132
生命保険協会統一開示項目索引	134
五十音順索引	136

平素から、私ども株式会社かんぽ生命保険をご愛顧、お引き立ていただき、誠にありがとうございます。

ここに、当社発足後初めてとなりますディスクロージャー誌を発行し、当社の業績や取組みについて、ご紹介させていただきます。

本誌を通じて、新生かんぽ生命に対するご理解を一層深めていただけたら、幸いに存じます。

## 民営化

既にみなさまご存知のとおり、当社は、国営の簡易保険事業の創設から91年目に当たります昨年10月1日、日本郵政公社の民営・分社化により発足いたしました。

新会社は概ね円滑なスタートを切ることができましたが、これもひとえに、みなさまのご支援ご協力の賜物と感謝申し上げます。

法律で定められた「民営化」の取組みに区切りがつきましたので、現在は新しいビジネスモデルの下、名実ともに「民間会社」となるための取組み、「民間化」へ向けての展開を進めております。

商品・サービスを向上させるとともに、透明性とスピード感をもった経営を展開し、地域と密着した郵便局との連携により、「躍動感をもって前進し続ける民間生命保険会社」となるよう、全社員が一丸となって力を尽くしてまいります。



取締役兼代表執行役社長 山下 泉

取締役兼代表執行役会長 進藤 丈介

## 平成19年度の業績について

当社は、民営・分社化時に、保険5,518万件、保険金額152兆円及び年金保険656万件、年金額2兆4千億円を、独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構から再保険として受再するとともに、平成20年3月までの民営・分社化後半年間で、個人保険59万2千件、金額1兆6,350億円、個人年金保険6万2千件、金額2,173億円の新契約をお引受けしました。

新契約実績は、少子高齢化による生命保険市場の縮小など厳しい事業環境の下、民営・分社化に伴う制度変更や、パートナー(代理店)である郵便局株式会社との連携が緒についたばかりであったことから、必ずしも満足できる結果ではございませんが、その後の状況は月を追うごとに改善しております。今後も、郵便局株式会社との更なる連携強化に努め、新契約の獲得に注力してまいります。

資産運用におきましては、金銭の信託で保有する株式及び外国証券を、民営・分社化に際し時価で承継した経緯もあり、その後の大幅な株安・円高の影響を受けて、資産運用費用を4,948億円計上しましたが、市場環境の悪化等に備えて積み立てておりました内部留保(価格変動準備金及び危険準備金)の取崩しにより対応した結果、当期純利益はほぼ計画通りの76億円となりました。今決算における取崩し後においても、内部留保は、価格変動準備金残高5,590億円、危険準備金残高3兆762億円となっており、ソルベンシー・マージン比率も1,116%と高い水準を確保しております。なお、保険会社の基礎的な期間収益の状況を示す基礎利益は2,672億円を確保しました。

## 平成20年度を迎えて

今年度は引き続き、当面する経営課題を一つずつ着実に解決し、株式上場に向けた経営基盤の整備を進めることにより、お客さまサービスの向上に努めてまいります。まず、事務・システム面では、お客さまの利便性向上の観点から、募集、引受、保全、支払サービス事務の合理化・迅速化のため、システム改革、サービスセンター改革などの取組みを推進してまいります。また、コンプライアンス態勢の強化にも、引き続き全力で取り組んでまいります。

営業面では、政府にご認可をいただいた新規業務として、本年6月に法人向け商品の受託販売、本年7月に新入院特約「その日から」の販売を開始いたしました。法

人向け商品の受託販売は、当社直営店の法人営業において、既存の自社商品を補完し、自社商品ではカバーできなかった経営者のみなさまのニーズにお応えできるものと考えております。また、新入院特約「その日から」は、これまでに寄せられた多くのお客さまの声にお応えする商品であり、パートナーである郵便局株式会社との密接な連携により、幅広い層のお客さまにご提供してまいります。これからも、分かりやすい商品特性を堅持しつつ、お客さまのニーズを踏まえた商品開発を進め、ラインアップの拡充を図ってまいりたいと考えております。

また、当社は、経営理念で掲げる「健康づくりへの積極的な貢献」の一環として、ラジオ体操の普及・促進に努めております。NHK及び全国ラジオ体操連盟と協力して、夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会等の各種行事を開催し、ラジオ体操を通じて、豊かで充実した生活に欠かせない、みなさまの健康づくりを応援してまいります。

## お客さまとともに未来を見つめて

当社は、大正5年に創設された簡易生命保険の「簡易な手続きで、国民の基礎的生活手段を保障する。」という社会的使命を受け継ぎつつ、「お客さまとともに未来を見つめて『最も身近で、最も信頼される保険会社』を目指します。」という経営理念の下、コンプライアンスの推進を図り、常にお客さまの立場に立って、分かりやすく利用しやすい商品・サービスの提供に努めてまいります。日本郵政グループの一員として、個人のお客さまには全国に広がる郵便局ネットワークを通じ、また法人のお客さまには当社の直営店などを通じて、確かな保障をお届けしてまいります。

生命保険業界は、少子高齢化など大きな社会経済構造の変化の中で、変革を迫られております。当社は、こうした事業環境の変化に対応し、91年の伝統と新しい日本郵政グループの総合力をフルに活かして、お客さまに新しい価値、「あたらしいふつう」をお届けできるよう、高い志をもって挑戦し続けます。

かんば生命のこれからの、どうぞご期待ください。

平成20年7月

取締役兼代表執行役会長

連原丈介

取締役兼代表執行役社長

山下泉